



侵华日军第七三一部队罪行实录

金成民 主编

日本细菌战史料集：

预防免疫类

(二)

金成民 主编



国家出版基金项目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

侵华日军第七三一部队罪行实录

金成民 主编

日本细菌战史料集： 预防免疫类 (二)

金成民 主编



中国和平出版社

目 录

- 1 关于支那事变新设陆军防疫机关的运用情况与未来战争方针以及预防接种效果 / 陆军军医学校军阵防疫学教室
- 54 关于利用诊断用沙门氏菌属因子血清进行副伤寒杆菌及格特内杆菌的抗原分析 / 谷山直记
- 67 关于利用蛋白质组分分析法对破伤风菌免疫血清进行的血清浓缩
第 1 报告之二 利用硫酸铵进行的盐析以及利用水溶性进行的组分分析 / 植村肇
- 80 关于伤寒等四种混合预防接种液的有效期 / 羽山良雄等
- 106 甲醛消毒法研究
第 5 篇之一 关于酚醛液的杀菌效力 / 津山义文
- 137 泛沙门氏菌属检验血清研究 / 高桥传
- 156 冻结干燥法研究 (8)
治疗用血清的干燥 / 内藤良一 若月乔
- 163 甲醛消毒法研究
第 1 篇 甲醛的浓度、温度、湿度、作用时间与杀菌力之间的关系 (1) / 津山义文
- 194 关于超声波霍乱预防接种 8 个月后的血中抗体 / 更井恒夫 远藤武
- 213 陆军现行预防接种液效果相关实验 第 1 篇
伤寒、副伤寒菌 A、B、格特内氏杆菌四种混合而成的预防接种液效果相关实验 (1) / 北条圆了 新保信一

- 223 家兔全部采血的简便方法 / 井泽馨
- 227 昭和十六年（1941）四月第1次气性坏疽血清委员会相关
记事 / 陆军军医学校军阵防疫学教室
- 233 试制灭菌纱布相关研究 / 佐藤幸雄
- 254 甲醛消毒法研究
第1篇 甲醛的浓度、（分压）、温度、湿度、作用时间与
杀菌力之间的关系（2） / 津山义文
- 296 药液喷雾消毒法相关研究
第1篇 喷雾消毒法中粒子半径测定方法 / 津山义文
- 321 关于军用被服类消毒引起的被服学及卫生学性能变化
研究 / 津山义文等
- 367 药液喷雾消毒法相关研究
第3篇 关于环境中影响消毒效果的理学性状 / 津山义文
- 393 药液喷雾消毒法相关研究
第2篇 粒子半径及喷雾浓度与消毒的关系 / 津山义文

陸軍軍醫學校防疫研究報告
第2部 第 99 號

支那事變ニ新設セラレタル陸軍防疫機關
運用ノ效果ト將來戰ニ對スル方針並ニ豫
防接種ノ效果ニ就テ

昭和15年8月30日於陸軍軍醫學校陸軍軍陣醫藥學會講演

陸軍軍醫學校軍陣防疫學教室



第	2	部
綜		説
分類		
340— 0		
—150— 0		
020— 0		
受 附	16, 8, 28	
本配簿 印刷部	5.0. 0	

187-2

支那事變ニ新設セラルル陸軍防疫機關運用ノ效果ト將來戰ニ對スル方針並ニ豫防接種ノ效果ニ就テ

昭和15年8月30日於陸軍軍醫學校 陸軍軍陣營樂學會講演

陸軍軍醫大佐 石 井 四 郎

編 輯

陸軍軍醫中將	四	澤	行	藏
陸軍軍醫大佐	石	井	四	郎
陸軍技師	安	東	洪	次
○同	渡	邊		邊
同	石	光		藏
○陸軍軍醫中佐	佐	藤	俊	二
同	太	田		澄
同	村	上		隆
○陸軍軍醫少佐	北	條	國	了
○同	碓		常	重
◎同	早	川		清
◎同	内	藤	良	一
陸軍軍醫大尉	中	黒	秀	外
同	川	井	勝	之
陸軍技師	開	原		重
陸軍軍醫中尉	小	林	榮	勳
同	安	東		三
同	丘	村	弘	清
同	山	内	正	造
同	平	野		通
同	田	山	吉	昌
同	植	村		政
同	村	國		肇
同	飯	田	貞	茂
同	一	條	泰	雄
陸軍軍醫少尉	松	谷	忠	一
				彦

(○ハ主務委員)

187-48

目 次

- I 第1章 緒言、戦争傳染病ノ歴史の考察概要
天、豫防接種ノ效果
- II 第2章 人體接種ニ際スル效果ノ統計
- A 1. 腸チフス」及「バラチフス」
- B 2. 「コレラ」
- C 3. 赤 痢
- D 4. 「ペスト」
- E 5. 流行性腦脊髄膜炎
- III 第3章 現行豫防接種液ノ製造補給及豫防接種實施ノ狀況
- A 1. 製法ニ就テ
- B 2. 補給數量ニ就テ
- C 3. 部隊ニ於ケル實施ノ狀況
- IV 第4章 現行豫防接種液ノ效果
- A 1. 腸チフス」及「バラチフス」
- B 2. 赤 痢
- C 3. 「コレラ」
- D 4. 「ペスト」
- V 第5章 石井機關ニ於ケル豫防接種ノ改良
- A 1. 「チフス、ワクチン」
- B 2. 「バラチフスA、ワクチン」
- C 3. 「バラチフスB、ワクチン」
- D 4. 「コレラ、ワクチン」
- E 5. 破傷風豫防接種液
- F 6. 動員用痘苗
- G 7. 猩紅熱接種液
- H 8. 「デフテリア」豫防接種液
- VI 第6章 將來ニ對スル意見
- A 1. 效力檢定法ノ確立
- B 2. 乾燥豫防接種液ノ製造補給
- C 3. 接種液ノ號區分ニ就テ
- 地、豫防機關運用ノ效果
- VII 第7章 本事變ニ新設セラレタル陸軍防疫機關
- A 1. 移動防疫給水機關（師團）

187—4

2. 固定防疫给水機關（軍）

第8章 各防疫機關行動概要

第9章 任務別作業ノ概要

1. 防疫斥候諜略調査班

2. 病原檢索防疫班

3. 毒物檢知水質檢査班

4. 消毒檢診班

5. 淨水班

6. 搬水班

7. 修理補給班

第10章 將來ノ方針

187-5

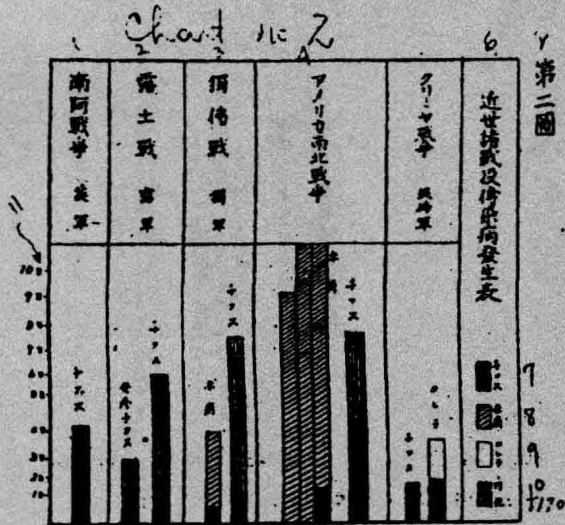
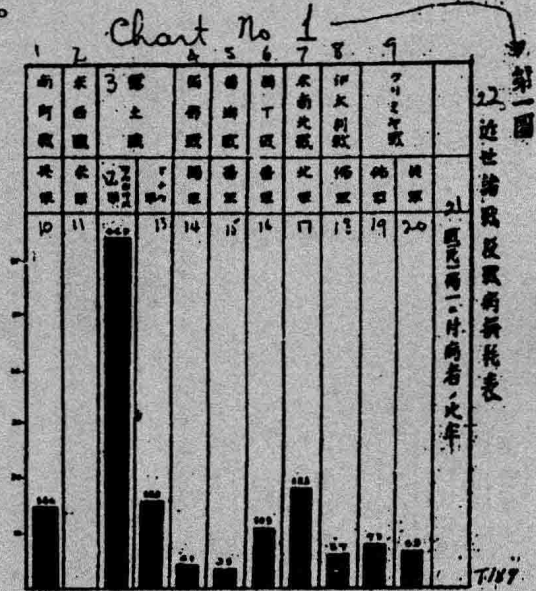
第1章 緒言 戦争傳染病ノ歴史の考察概要

古今東西ノ戦役ニ於テ戦争ト傳染病ハ影ト形ノ如ク附隨致シテ居リマシテ、病者ノ數ハ戦死傷者ノ數ニ數倍乃至數十倍シ、病死者ノ數ハ戦死及傷死者ノ數ニ數倍、戦役ニ於ケル兵員損耗ノ主因ヲナシマシタコトハ周知ノ事實デアリマス。

（第一圖）

近世諸戦役ニ於ケル損耗中、戦死傷1ニ付病者ノ比率デアリマシテ、通常數倍乃至十數倍、露土戰ニ於ケルカウカサス軍ニ於テハ實ニ65倍ニ達シテホルノデアリマス。

其ノ主力ハ勿論傳染病デアリマシテ



（第二圖）

クリミア戦争ノ英佛軍ニハ「コレラ」患者 33,000、内死亡 16,000、「チフス」患者 11,000、内死亡 5,000、アメリカ南北戦争ニハ、腸チフス患者 75,000、内死亡 27,000、赤痢ハ實ニ 290,000ヲ出シ、獨逸戦争ノ獨逸軍ニハ腸チフス 78,000、内死亡 3,000、赤痢 39,000、内死亡 3,000、露土戦争ノ露軍ニハ腸チフス」及「チフス」様患者合計 65,000、發疹チフス」30,000、赤痢ニヨル死亡ハ實ニ 13,000ニ達シマシタ。

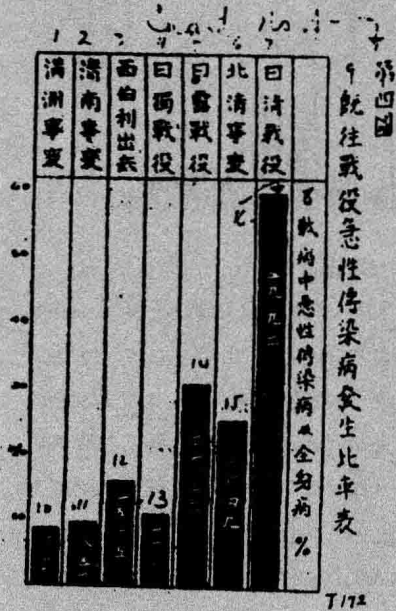
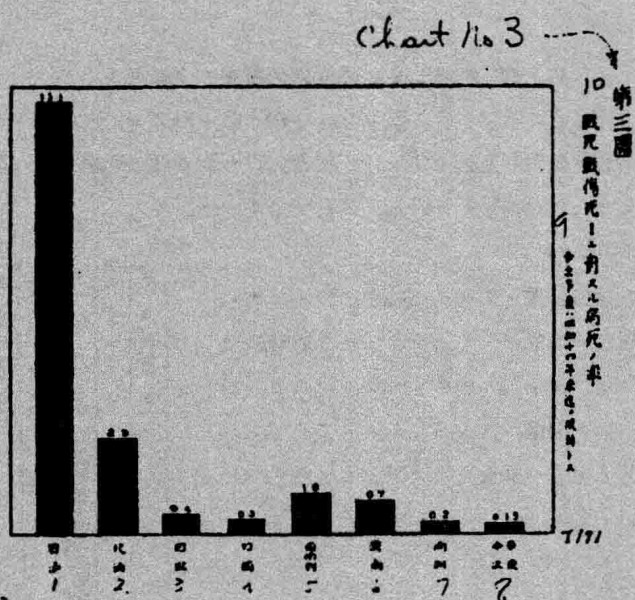
又「マラリア」ハ總病者ノ約半數ヲ算

シ、米西戦争ノ米軍ニ於ケル「マラリア」、赤痢及黄熱ニ因ル死者ノ數ハ戦死傷者ノ數ニ7倍シ、南阿戦争ニ於ケル英軍ハ腸チフス」43,000ノ多數ニ悩ムノデアリマス。我が皇軍モ亦此ノ例ニ準レズ既往ノ戦役ニ於テハ

187-6

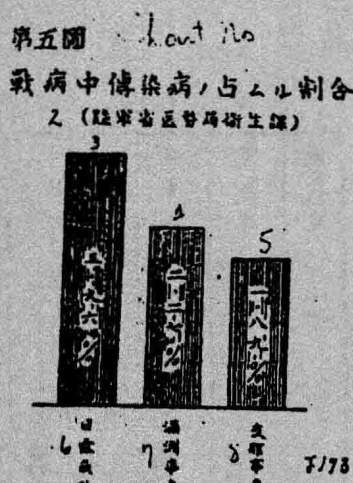
(第三圖)

戦死戦傷死1=對シ病死ノ率
著シク高ク、濟南事變ニ到ル迄
ハ殆ド0.5以上デアリマシタガ、
今次事變デハ昭和14年末迄ノ統
計ニ於テハ0.13トナリ實ニ日清
戦役ノ100分1、日露ノ3分1ニ
減少シタノデアリマス。
此ノ戦病中急性傳染病及全身
病ノ比率ハ



(第四圖)
本表ノ如クデアリマシタ大體7%以上
急性傳染病ノミヲ指ガマス

(第五圖)
本表ノ如クデア
リマシテ、即、今
大事變ニ於テハ戦
争ノ規模ハ空前絶
後ト申スベク擴大
シマシタニ拘ラズ
1,80% トイフ好成
績ヲ示シタノデア
リマス。



コレハ日清ノ約10分ノ1、日露ノ約半、滿洲事變ノ約
80%デアリマス。前表ヨリ換算致シマシタ戦傷(死ヲ含ミ)1=對スル急性傳染病發生ノ比率ヲ
見マス0.12トナリマシタ既任戦役ノ何レヨリモ優秀デアリマス。

作戦地其ノ物ノ衛生的環境ハ日清戦争時代ト大差ナク事。作戦地域ノ關係ハ日清戦争ヨリモ遙
ニ不良ナルニ拘ラズ、斯ノ如ク傳染病ノ減少ヲ來シタル原因如何、余ヨリ將兵ノ衛生知識ノ向上、
衛生機關ノ編成、裝備ノ改善、活躍、衛生部將校以下ノ絶大ナル努力等幾多ノ根據ヲ認メ得マセ
ウガ、茲ニ本問題ノ結論ヲ先ニ述ベマス。防疫給水部ノ活動、豫防接種ノ效果亦其ノ功績ノ1
部ヲ分擔シアルモノト信ジマス。

187-7

以下之ガ詳細ヲ述ベマス。

天、預防接種ノ效果

第2章 人體接種ニ際スル效果ノ統計

預防接種ノ效果ニ關スル動物試驗ノ例ニ至リテハ、ロベルトコツホノ近世細菌學樹立以來細菌學免疫學ノ努力ノ過半ガ之ニ注ガレタト申シテモ過シデナイ。從ツテ之ヲ茲ニ逐一説述セントセバ殆ド不可能デアリマスガ、是等動物實驗ニ於テ預防接種ガ安全ニシテ且有效ナリトノ結論ヲ得テ後、地球上人間ニ對シ各種ノ預防接種ガ行ハレルヤウニナツタ譯デアリマスノデ、人間ヲ對象ト致シマシテ預防接種ヲ行ヒ罹患又ハ死亡率ヲ統計的ニ取扱ツタ各國ノ例、殊ニ軍隊ニ於ケル例ノ中代表的ナルモノヲ取上ゲマス以下ノ如クデアリマス。

1. 腸チフス 及「バラチフス」

先づ外國陸軍ニ於ケル腸チフス、「バラチフス」接種者、非接種者ノ罹患率及死亡率ヲ見マスルニ

(第六圖)

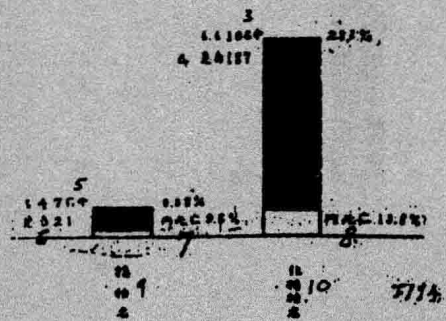
英國陸軍、英國本土軍1904年ヨリ1909年迄ノ統計

ハ接種者ニ於テハ8分ノ1ノ罹患率

第六圖 Chart no. 6

1 腸チフス

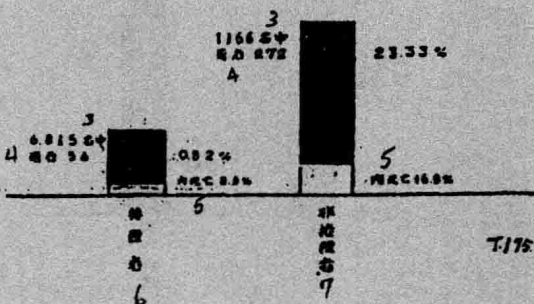
2 英國陸軍 3 英國本土軍



第七圖 Chart no. 7

1 腸チフス

2 英國陸軍 3 植民地軍



(第七圖)

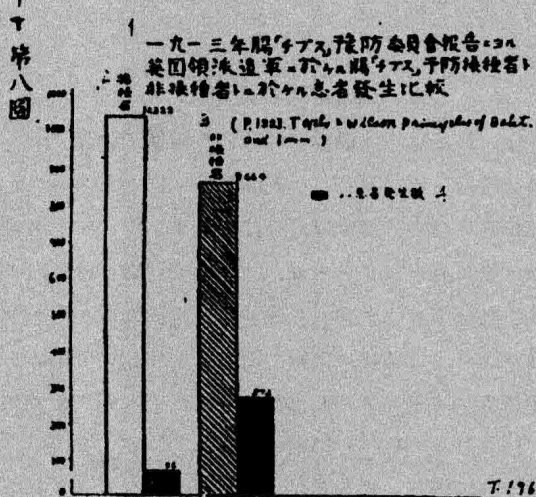
英國陸軍、殖民地軍同年間ノ統計ハ接種者ニ於テハ約8分ノ1ノ罹患率ヲ示シテキマス。

187-8

(第八圖)

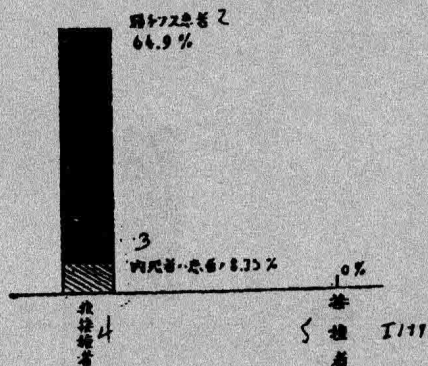
コノ兩成績ニヨリマシテ1813年英國ハ
「陽チフス」豫防委員會ヲ編成シ殖民地軍
ニ於ケル陽チフスノ罹患率及死亡率ヲ
調査セシメマシタガ其ノ成績ハ本圖ノ如
クデアリマス。

Chart No. 8



第九圖

佛陸軍1911年アルゼリヤ及モロッコ部隊



(第九圖)

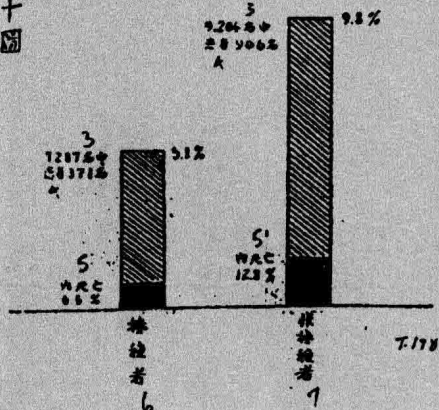
佛國陸軍1911年アルゼリヤ及モロッコ部隊ノ統計
ハ本圖ノ如ク極端デアリマスガ

(第十圖)

獨逸陸軍1904年ヨリ1911年、西南アフリカ守備
軍ニ於テハ接種者ノ罹患率ハ非接種者ノ約半分ヲ
ホシテ居リマス。

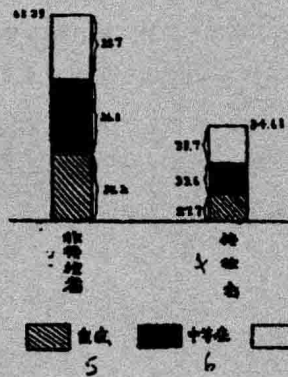
Chart No. 10

陽チフス
独逸陸軍1904-1911 西南アフリカ守備軍



(第十一圖)

我が國軍ニ於キマシンハ明治41年ヨリ大正元年ニ至ルノ間接種者ニ於テハ非接種者ノ約7分ノ1、死亡率亦概ネ半分ナルヲ示シテ居リマス。



(第十二圖)

明治43年ヨリ大正15年ニ至ルノ間ノ統計モ亦同様デアリマスガ、罹患者中重症者亦接種者ニ於テ少キヲ示シテキマス。コレヲ詳細ニ見マスト

(第十三圖)

腸出血及再發ノ率ニ於テ著シク少數ナルヲ示シテキマス。

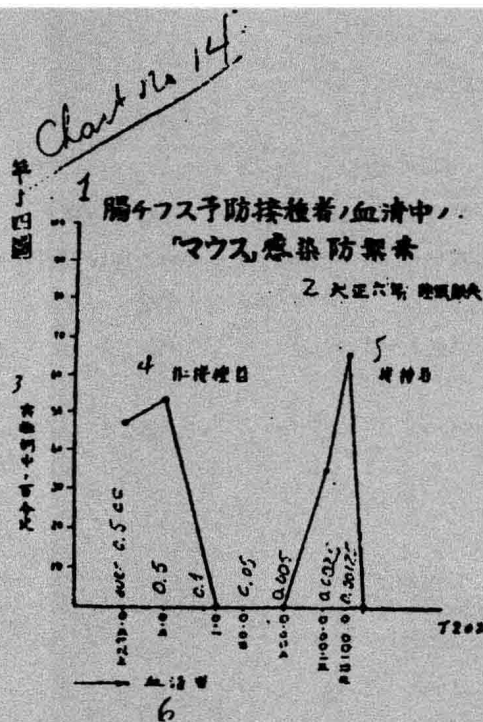
1 陸軍兵器に關する防務經濟の別經過比較表

2	接種者		非接種者	3
	7081 平均一人有4個蟲		7361	
	722 陽性數		7381	
	72A-52 再檢		7453	T29L

187-10

(第十四圖)

大正6年我が隊兵接種者ノ血清ニ就キ實施セラレマシク血清中ノ「チフス感染防禦素」デアリマスガ、接種者中ノ感染防禦素著シク高價ナルヲ示シテ居リマス。

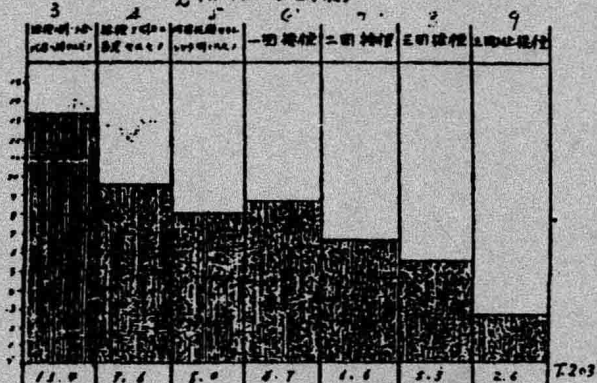


第十五圖 Chart No. 15

1 第一次欽州大戦ノチチフス死亡率ニ對シテ腸チフス予防接種ノ影響

SHANGHAI 1919
Summary
1919-1920

2 (東部、西部、區域)



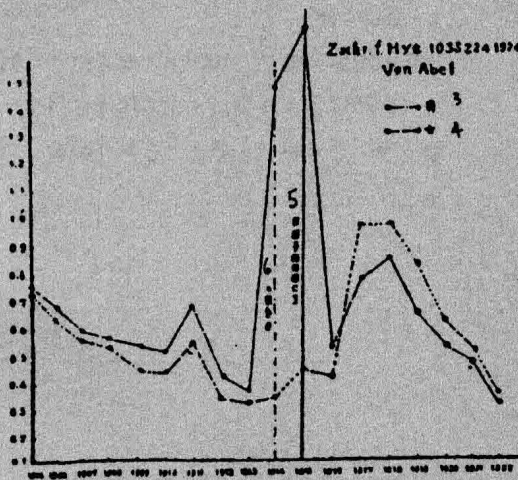
(第十五圖)

豫防接種ノ回数ト死亡率ノ關係ニ關シマシテ獨逸軍ノ調査デアリマスガ、本圖ノ如クデアリマシテ接種ノ重ナル程死亡率ヲ減少スルコトガ明瞭且精密ニ示サレテキマス。

(第十六圖)

又、豫防接種後ノ有効期間デアリマスガ、1916年獨逸陸軍傳染病院收容患者1,000名ノ實數(斜線)及死亡者(黒)カラ死亡率ヲ割出シマスト7ヶ月以上ニ至ルモ死亡率ハ非接種者ノ半分以下デアルヲ示シテキマス。

以上ノ如キ成績ヨリ豫防接種實施前ト實施後ニ於ケル患者發生ノ狀況ヲ時期的ニ觀察サレクモノヲ集メマスト以下ノ如クデアリマス。



(第十八圖)

獨逸陸軍ニ於テハ1914年豫防接種ノ普及ト共ニ同一ノ大戰トイフ條件下ニ於テ著明ナル減少ヲ來シ

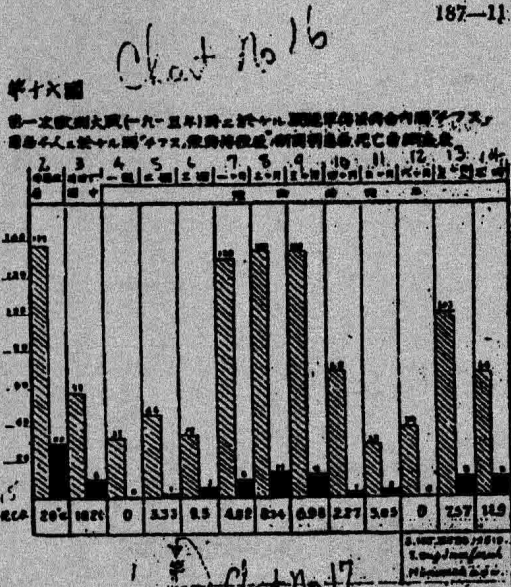
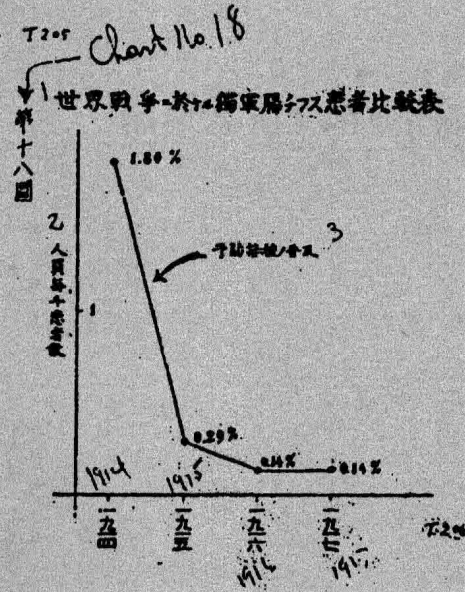


Chart No. 17

(第十七圖)

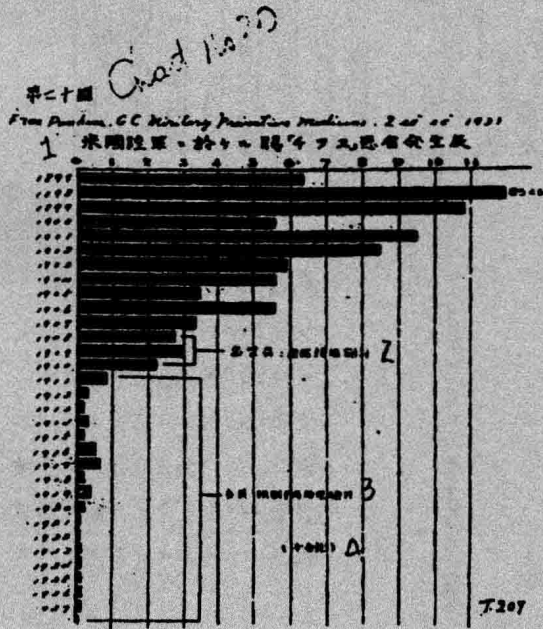
「プロシヤニ於ケル腸チフス」
人口毎 10,000 死亡者數ヲ見マス
ニ大戰勃發ト共ニ急激ナル増加ヲ來シ、其ノ後ノ復舊ニヨリ豫防接種ノ效果トシテハ餘リ明瞭ニ現ハレテキナイデアリマスガ



187-12

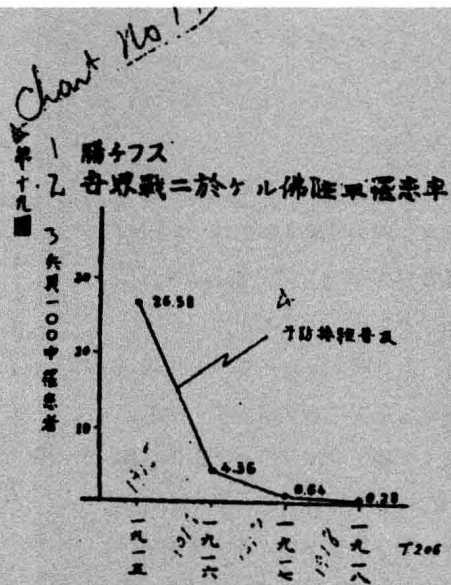
(第十九圖)

佛國陸軍ニ於テモ亦同ジク1915年ヨリ豫接種者
及セラレマシタガ同様デアリマス。



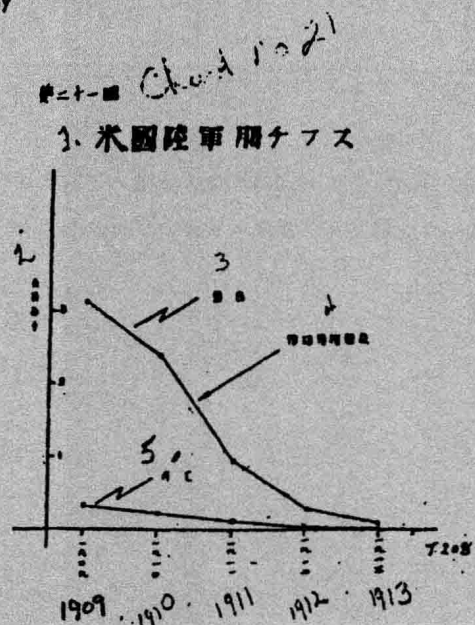
(第二十一圖)

死亡者亦同様デアリマス。



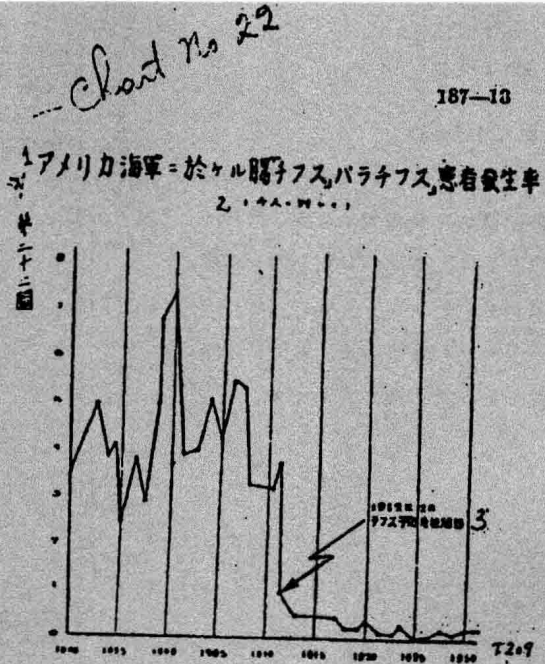
(第二十圖)

米國陸軍ニ於テハ1908年ヨリ志願者ニ對
シテ、1911年ヨリ全員ニ豫防接種ヲ行ツテ
参リマシタガ患者ノ發生ハ著シク減少シテ
居リマス。



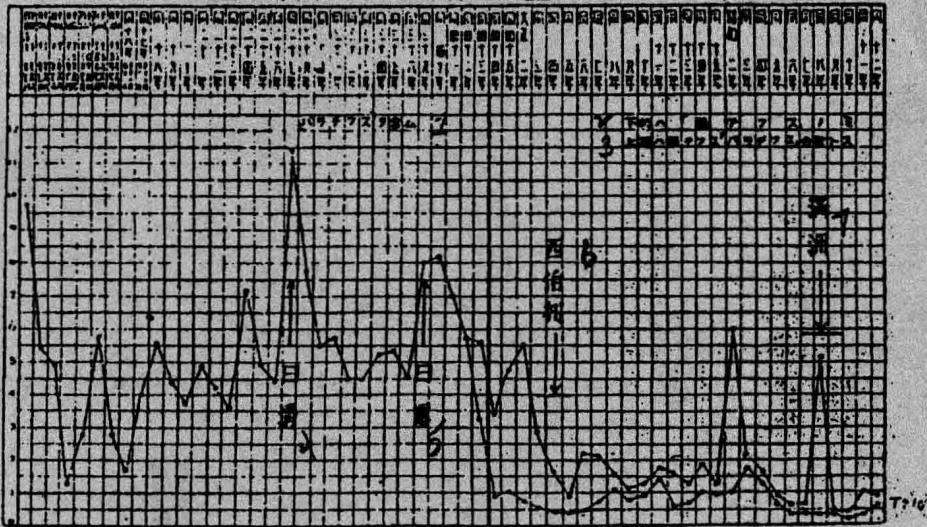
（第二十二圖）

米國海軍ニ於テハ稍遅レテ1912年2月ヨリ豫防接種ヲ開始致シマシタガ、是亦著明ナル減少ヲボシテキマス。



第二十三圖

全圖腸チフス累年比較圖表（人頭中ニ對スル患者數）



（第二十三圖）

本圖ハ國軍ニ於ケル同様ノ成績デアリマシテ、各位御承知ノ如クデアリマス。但シ、本表ハ豫防接種開始前ハ腸チフス、「パラチフス合計、接種後ノ統計ハ腸チフス」ノミノ統計デアリマシタガ「パラチフス」ヲ合計致シマシテモ亦、且著明ナル減少ヲ見ルモノデアリマス。

以上ノ如ク腸チフスニ於ケル豫防接種ノ效果ハ今日殆ド既定ノ事實デアリマスガ、米國陸軍